

公開プレゼンテーション編

今回の
注目パソン



設計業務者選定委員会
古谷 誠章 委員長
昭和30年東京生まれ。一級建築士。[小布施町立図書館 まちとしょテラソ]などで日本建築学会作品選奨など、受賞多数。現在、早稲田大学大学院で教鞭を執る。

まちづくりの拠点を生み育てよう！

公開プレゼンテーションを経て、「図書館・歴史資料館」の設計者がついに決定し、新たなまちづくりの拠点の誕生へ第一歩を踏み出した福智町。ここでは、その審査の様子と選出された提案をご紹介します。

新たな拠点づくりのパートナーが決定

福智町図書館・歴史資料館の設計者を決める公開プレゼンテーションが3月21日に地域交流センターで行われました。1次審査には北海道から鹿児島まで105者が参加し、この日、最終選考に残った5者が会場に集まった200人を越える来場者の前でそれぞれ特色豊かな提案を発表。「福智町に図書館を」という思いから、平成24年に設置計画がスタートして約3年、赤池支所の改修設計者が選定され、ついに福智の新しい拠点を共に築くパートナーが決定しました。



1. 開場と共に多くの来場者が詰めかけた地域交流センター。2. 審査はロビーでもモニターに表示。3~5. 会場には住民だけでなく、設計に携わる企業や学生の姿も見られ、立ち見がでるほど。ハイレベルな設計を吸収しようとメモを取る姿も。6. 提案を真剣に審査する審査委員会メンバー。



全国から力を集め
小さな町に新風を

「本の貸し出し」だけを行う施設ではなく、まちづくりの拠点となるような施設を建設するため、最新鋭のノウハウを吸収しようと、今回、設計者を全国公募しました。また、審査委員も町内の有識者に加え、早稲田大学大学院教授の古谷委員長をはじめ、北九州空港の連絡橋を手がけた松岡恭子さんや町の図書アドバイザーでもある花井裕一郎さんを招聘。福智ならではの、かつ福智を全国にPRできる、小さな町で大きな可能性を持った施設の誕生を目指しました。

住民の参画こそが
「ハコモノ」を変える

「財政再建やふるさと創生が叫ばれる社会の中で、新たに作り出す公共施設は日常的に人が集まる場所であれば必要とされません。建てられた施設」を行政が一方通行で提供するのではなく、住民主体の原則に立ち返って、建設過程から利用者である住民と、一緒に生み出すことが大切です」と公開審査の意義を語った古谷委員長。「住民が、かわる。ことが重要で、手が加わるからこそ愛着が湧き、血が通い、自然と人が集まる施設になるはず。今回の公開審査はそのきっかけに過ぎません。今後、具体的な建設に向けて住民参加型のワークショップなどを開き、みなさんを巻き込む。取り組みが計画されています。平成28年度中の施設完成へ向けた取り組みに、ぜひのぞきにきて、手を貸してください。そして、今回選出したパートナーと共に、みなさんの手で日本一の施設を生み育てて欲しいですね」と目を細めていました。

Interview
どの提案にもまちづくりに対する強い意思が感じられました。家族でも楽しめるような施設が完成したら、また福智町へ訪れたいです。
大分県大分市 玲ちゃん
岡邑 和昭さん 和くん



Interview
建築を学んでいるので公開提案に興味があり見に来ました。発案者の本気が伝わってくる、初めての空気に刺激を受けました。
添田町 高瀬 舞さん



Interview
提案から若い設計者ならではの熱意を感じました。今後施設を作っていくなかで、私たち住民も関われる機会があれば参加したいです。
福智町 石谷 光信さん



公開プレゼンテーションの流れ

読みたい!
がまちを受えろ。



● 企画提案
最終選考5者が、模型やイメージ図を使い、巨大な箱型の本棚設置や、1・2階を井戸状にスロープでつなぐなど、多彩なアイデアを発表。



● 最終審査
設計者による熱意の込められた提案を受け、審査委員会での最終審査もヒートアップ。約2時間におよぶ審議を行った結果、ついに最終選考を選出。

● 模型公開
各者のアイデアを具現化した模型は、椅子や本など細部までこだわった圧巻の造形。提案後公開された模型の前に来場者が長蛇の列を作りました。



施設愛称
「ふくちのち」
「智」と「地」をつなぐところ
最優
2015.07
優秀賞
一級建築士事務所
大西麻貴+百田有希 / o+h
with 原田祐馬 & 多田智美
大西さん(中央)

福智町のみなさん、はじめまして。図書館・歴史資料館の設計に携わることになりました「o+h」の大西麻貴と申します。私たちはこのまちで培われてきた豊かな自然や文化、産業を引き継ぐ新たな出会いの場として、設計テーマを「ふくちのち」と決めました。「知恵や知識の拠点としての智」「土地に根付く場所としての地」、二つの「智」と「地」が交わる場を生み出すことで、住民が一体となって未来に伝えていきたい「ふくちのち」を考え、それを伝承できる場を生み出したと考えています。施設づくりの主役は利用者である町民のみなさんです。私たちはそのパートナーとして、みなさんに喜んでいただける施設を設計します。これからフィールドワークやワークショップをたくさん行って、みなさんと苦労を共にし、感動を分かち合っていければ、と考えていますので、どうぞよろしくお願いいたします。



現在の玄関部分 ※提案模型
WiFi広場